

[成果情報名]リンドウ1年生株における主塊茎の発達と一次副塊茎の形成

[要約]リンドウの1年生株において、定植 36 日後には既に主塊茎が発達しており、定植 77~97 日後のごく短期間に一次副塊茎の形成が観察される。

[キーワード]リンドウ、主塊茎、一次副塊茎

[担当]岩手県農業研究センター・技術部

[代表連絡先]電話 0197-68-2331

[区分]東北農業・野菜花き（花き）

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

多年生である切り花リンドウの収量を長期にわたり維持するためには、塊茎の発達を促すことが重要であるが、塊茎の初期生育に関する知見が少ない。そこで、1年生株を経時的に調査し、塊茎の初期生育を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. エゾリンドウ（早生、晩生）およびササリンドウのいずれにおいても、主塊茎は定植 36 日後には肉眼で観察される（図 1）。
2. エゾリンドウ（早生、晩生）およびササリンドウのいずれにおいても、一次副塊茎は定植 67 日後には観察されず（図 2）、97 日後には観察される（図 3）。
3. エゾリンドウ（極早生、早生、晩生）のいずれにおいても、一次副塊茎は定植 63 日後には観察されず（図 4 A）、77 日後には観察される（図 4 B）。
4. 以上より、リンドウの1年生株において、定植 36 日後には既に主塊茎が発達しており、定植 77~97 日後のごく短期間に一次副塊茎の形成が観察される。

[成果の活用面・留意点]

1. リンドウの株の維持に重要な役割を果たす一次副塊茎の発達を促し、安定生産に寄与する技術開発の基礎知見として活用する。
2. 定植前にジベレリン処理を行った露地慣行栽培株を調査した結果である。ジベレリン処理の有無と一次副塊茎の形成との関係については、今後検討する予定である。
3. 成果の内容・特徴 1 および 2 は、エゾリンドウ早生種「いわて EB-1 号」、晩生種「いわて LB-4 号」およびササリンドウ極晩生種「アルタ」を 2015 年 6 月 25 日に定植した結果である。また、成果の内容・特徴 3 は、エゾリンドウ極早生種「いわて夢あおい」、早生種「いわて EB-1 号」および晩生種「いわて LB-3 号」を 2016 年 6 月 15 日に定植した結果である。他の品種については未検討である。

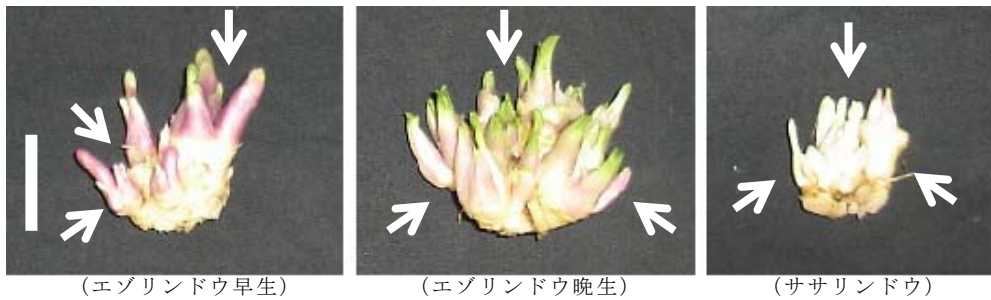
[具体的データ]



(エゾリンドウ早生) (エゾリンドウ晩生) (ササリンドウ)
 図1 定植 36 日後の塊茎 (2015.7.31)
 ※主塊茎の発達を確認 (一次副塊茎なし)

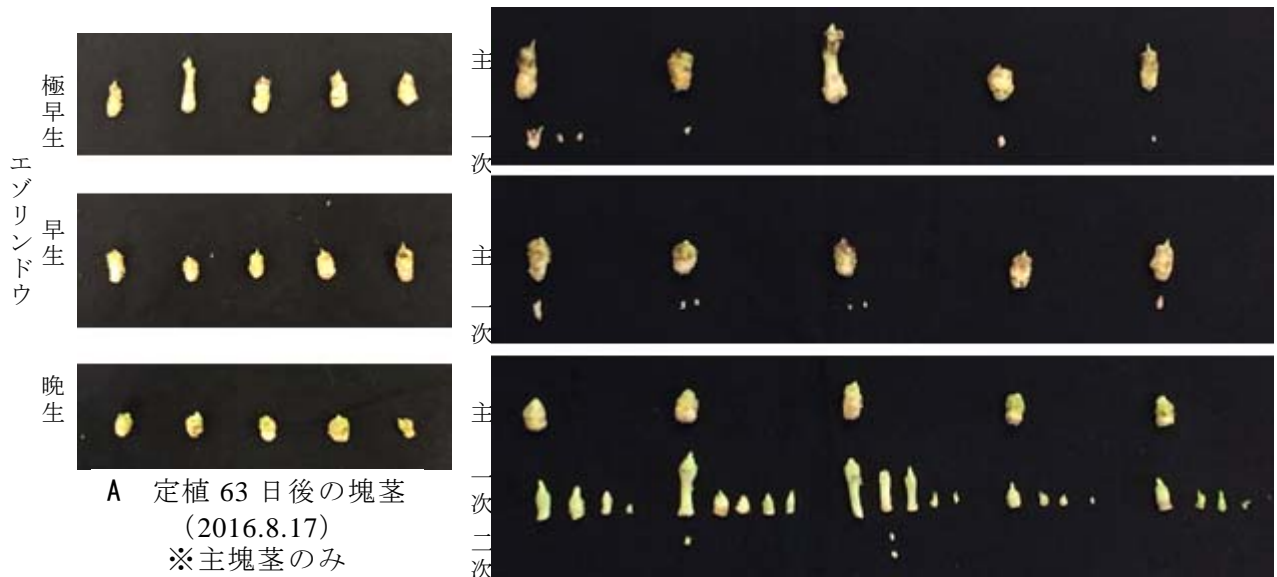


(エゾリンドウ早生) (エゾリンドウ晩生) (ササリンドウ)
 図2 定植 67 日後の塊茎 (2015.8.31)
 ※主塊茎のみ (一次副塊茎なし)



(エゾリンドウ早生) (エゾリンドウ晩生) (ササリンドウ)
 図3 定植 97 日後の塊茎 (2015.9.30) ※一次副塊茎の形成を確認

【凡例】
 図1~3
 線は 1cm を示す
 図3
 下矢印: 主塊茎
 斜め矢印: 一次副塊茎



A 定植 63 日後の塊茎 (2016.8.17)
 ※主塊茎のみ (一次副塊茎なし)

B 定植 77 日後の塊茎 (2016.8.31)
 ※一次副塊茎の形成を確認

図4 定植 63 日後および 77 日後の塊茎 (主: 主塊茎、一次: 一次副塊茎、二次: 二次副塊茎)

(岩手県農業研究センター)

[その他]

研究担当者: 阿部弘、小田島雅

発表論文等: 阿部弘(2016)園芸学研究、15(別 2):241